

第4回昭島市産業振興計画 策定委員会

要点記録

日時：平成29年3月3日（金）
午後6時～午後7時15分

次 第

1. 開会
2. 議題
 - (1)各委員からの意見について
 - (2)パブリックコメントの結果について（報告）
 - (3)産業振興計画の最終案について
3. その他
4. 閉会

配布資料

【配布資料】

- 資料1 各委員からの意見
資料2 パブリックコメントの結果
資料3 昭島市産業振興計画最終案

出席者（敬称略）

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所 教授・副所長）

副委員長・・・内藤博（事業承継センター株式会社代表取締役）

委員・・・幸田義康（昭和飛行機工業株式会社地域振興推進室長）、鈴木一昭（昭島市商工会建設業部会長）、長瀬透（昭島市商工会工業部会長）、水野宏一（昭島市商工会事務局長）、住元文和（信金中央金庫地域・中小企業研究所次長）、谷口昌平（地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター上席研究員・複合素材開発セクター長）、今安典子（東京都農業振興事務所農務課課長代理）、國井俊彦（一般社団法人昭島観光まちづくり協会事務局長）、高橋早苗（公募市民）、桑名美恵（公募市民）

事務局・・・永澤（市民部長）、青木（市民部産業活性課長）、東山（市民部産業活性課産業振興係長）、増田（市民部産業活性課・都市農業担当係長）、板谷（市民部産業活性課）、北原（市民部産業活性課）

嵯峨（多摩信用金庫価値創造事業部）、澤田（多摩信用金庫価値創造事業部）

欠席・・・井ヶ田博（昭島市商工会商業部会長）、大坪美枝子（公益社団法人東京都中小企業振興公社多摩支社情報交流係長）、鈴木勇作（昭島市農業生産団体連絡協議会会長）、小山美智代（公募市民）

1. 開会

事務局・・・挨拶、資料確認

2. 議題

委員長・・・ 年末年始の忙しいところ、昭島市産業振興計画（案）（以下、「計画（案）」）について確認をいただき、様々な意見を頂戴した。その修正を踏まえて、1月から1ヶ月間パブリックコメントを実施した。内容について、事務局より説明をお願いする。

事務局・・・ 資料1を参照願いたい。委員からの意見は、14件あった。内容についての多くが、数値相違や誤記であった。3ページの13番と14番について、計画（案）の69ページの第5章1項計画推進の体制にあたる部分につき意見をいただいた。具体的には「市がすべての予算を確保するのではなく、それぞれの連携団体が主体的に動き、産業振興を市民にとって、身近な取り組みにしていくことが重要である。」という記載は、内容、予算等については、東京都立産業技術研究センターとの協議が必要との意見を頂戴した。もう一点は、東京都中小企業振興公社より、「東京都の許可及び協議なく、支社で勝手に、主体的に運営できない。」理由から、「ただし、市がすべての予算を

確保して運営していくのではなく、それぞれの連携団体が、主体的に動き、産業振興は市民にとって身近な取り組みにしていくことが重要である。」という部分の削除依頼があった。以上の意見を受け、「ただし、地域内には、各分野の振興を図る支援機関も存在することから、各団体が実施する施策やスキームと連携しながら、市内、地域内の産業振興をより効果的に、効率的に推進していく。」という表記へ変更した。

続いて、パブリックコメントの結果について報告する。資料2を参照いただきたい。意見の募集期間は、平成29年1月20日（金）から平成29年2月20日（月）までであった。募集方法については、HPへの掲載、市内各公共施設に計画（案）を設置し、書面にて意見を募った。意見の提出については、2名から、いずれも郵送にて頂戴した。

1つ目の意見は、48ページの第4章1工業、市民展示ケースについての意見を頂戴した。「市役所市民ロビーに設置されている、産業展示ケースであるが、市内事業所の技術、商品を継続的にPRする施策であるが、広くPRするために設置場所を変更してみてはどうか。」これに対し市の回答は、「市民ロビーには、幅3.6m×奥行1m×高1.5mの展示ケースを設置しているが、展示ケースが大きく、他の施設でスペース確保ができず、設置が難しい。また、計画（案）の施策3にて、昭島の工業力のみえる化を地域内外に広くPRする施策を計画している」ことを回答した。

2つ目の意見は、66ページの第4章5基本戦略に基づく共通の取り組みについて意見を頂戴した。「お祭りやイベント事業がマンネリ化している。継続していくことも重要であるが、訪れてみたい、魅力あるイベントには変化も必要でないか。」これに対し市の回答は「お祭りやイベント事業は、各実行委員会にて開催内容等を検討している。来場者に満足してもらえるよう、内容に工夫を凝らしている。また、歴史あるイベントについては、毎年同じ内容の催しも楽しみにしている市民もいるので、いただいた意見をもとに、魅力あるイベントになるよう各実行委員会で検討する」と回答した。

委員長・・・以上が、委員からの意見とパブコメについて意見である。質問や意見があれば発言願いたい。特に無いようなので、次の議題「産業振興計画最終案」へうつる。

委員長・・・前回の委員会で、委員から意見をいただいた中に「廃校を活用した場づくりや様々な人が集まる場が必要でないか」という意見もあったが、すぐに活用できる状態ではなく、予算の関係もあり、委員会にて出た意見そのものは反映できていない。また昨年行ったワークショップのような場は必要であ

ると感じた。計画を作って終わりにするのではなく、具体的に来年度から事業をスタートしていく必要があるので、事務局側の意見を委員のみなさまと共有したいと思う。

事務局・・・ 場づくりについては、48 ページ「工業の見える化」、52 ページ「水ブランドの推進」におけるニーズやシーズの把握にて行っていく。委員会の意見でいただいた企業と市民が主体的に関われる産業間連携についても計画中に記載した。場を構築するにあたっては、関わっていく人や人材発掘を兼ねて、平成 29 年度よりスタートする。みなさまが集まれるワークショップを開催する予定であるため、委員のネットワーク上にいる人や新しい人に参加いただきたい。

委員長・・・ 「あきしまの水」や「工業の見える化」について強い要望もあった。それを継続的に検討できる場を構築していかないといけない。市だけが推進するのではなく、事業者や市民が参加できる場を作っていく。

計画（案）は、ほぼ固まったので、委員会に関わった感想や意見を出席の委員からお願いしたい。

桑名委員・・・ 昭島に 40 年以上在住している。親が薬局を経営しているが、意外と知らないことが多かった。工業、商業、農業を知ることができ、昭島に住んでいて良かった。

高橋委員・・・ 計画（案）が、送付されてきたときに、計画策定の労力がすごく伝わってきた。私は、昭島に住んで 17 年ぐらいだが、昭島のことを考えている皆さんが協力して、このような計画を策定していることを知らなかった。貴重な体験をさせていただいた。昭島の魅力を再発見できた。

委員長・・・ 小山委員は本日欠席だが、市民委員の視点はまさに一般市民の感覚であり、今回の計画（案）に影響を与えている。その内容が反映された内容となっている。

國井委員・・・ 10 年スパンの計画（案）に選任いただき感謝する。前回（平成 19 年）産業振興計画策定の際に、初めて「観光」が文言として産業振興計画に取り入れられた。その際は 2、3 文字程度しかなかった観光だが、平成 23 年に昭島観光まちづくり協会ができ、現在の計画（案）に掲げられた 3 項目が具体的に形になっていることに感謝している。近年は、どこの都市でも、観光に力を入れている。交流人口を拡大していく取組み、計画（案）に記載される

内容を推進させ、昭島が行ってみたい街、住んでみたい街になることを目指していく。「本気でやる！」ことを念頭に昭島観光まちづくり協会が先陣を切っていく所存。

委員長・・・ 前計画から昭島観光まちづくり観光協会を作る計画が実現した。観光が各産業をつなぐ中核となる。産業をつなげる役割をお願いしたい。10年後を楽しみにしている。

今安委員・・・ 昭島市の中で、農業に従事している人数は少ないが、現状は市の中にて農業が行われている。都市農業振興基本法も平成27年7月に制定されたことにより本来は調整区域（農業振興区域や市街化調整区域）にあるべきといわれていた農地であるが、昭島市のような都市の市街化区域の中の農地も、法的に農地として国に位置付けられた。東京都も都市農業の振興をオリンピックへ向けて、取り組んでいる。観光・商業分野へも繋がっていくと思う。農業の取り組みを市民の方に知っていただけて良かった。

委員長・・・ 昭島市は都市農業を象徴する地域といえる。これからの方向を議論することができた。ワークショップでも化粧品と農業が繋がるアイデアなどが挙がり、農業と各産業との連携を模索する動きが見えた。

谷口委員・・・ 東京都立産業技術研究センターは工業の支援をしている支援機関であり、その対象は中小企業が中心。昭島市と当センターとは、連携協定を締結しているので、現場に沿った具体的な支援を進めていきたい。観光業と連携して、夏休みの子供向けに、科学技術教室を開催する動きも進めたい。

委員長・・・ ものづくりは昭島の中心。一緒にできることは、サポートしていただきたい。

住本委員・・・ 今後、計画（案）を実行していく際には、研究所にストックされている情報を提供できると思うので声をかけていただきたい。実行していくことが大切である。

委員長・・・ 専門的な立場からの意見や事例を紹介いただき感謝である。

水野委員・・・ 各機関との連携や縁を大事にしていきたい。今後、この計画（案）をいかに実行していくことが重要である。

委員長・・・ 元気プロジェクトから関わっていただき、感謝している。商工会とは、実行部隊・連携先として計画（案）内容を推進実行していきたい。

長瀬委員・・・ 昭島の歴史観をひもとき思うことは、昭島のブランド力が重要であるということ。工業部会としては、学生や他の団体の見学や訪問を通じて様々な交流を図ってきた。今後は中小企業の参加意識を出させる努力が必要となる。埋もれている人たちを表に出していくこと、たま工業交流展、市の展示ケース等への参加意欲向上を図ることが大事と感じる。

当社は、イプシロンロケットの先端を制作した「なべから NASA まで」の会社。市内ポケットパーク内のオブジェ「大地の声」も作成した。また拝島駅前の「ウォーターパール（噴水）」を制作したので、昭島の技術力を見てもらいたい。

時代感としては、3K（環境・健康・観光）＋1K（教育）が大切であると考えており、学校との連携を進めている。ものづくりに興味がある学生を10年かけて職人に育成している。42年前に自分が入社したときは、5人態勢だったが、今は70人規模へと発展した。逆に人材育成に力を入れていない会社は衰退していると思う。

今回、たま工業交流展では、今までの会社からのイメージチェンジを図るため、チタンのぐい飲等身近なものを展示した。町おこしを行っていくのであれば、昭島の魅力をみんなでアピールしていくことが必要。

鈴木一昭委員・・・ どのような形のまちづくりを行うにせよ、基礎・基盤・グランドづくりなど、インフラ整備が重要だと考えている。建設業は、神輿の下の担ぎ手。上下水道の維持、メンテナンス、降雪時の対応には建設部会が出動している。

工業の中に建設業が入った計画（案）となっているが、建設業は産業振興という観点から見ると工業の中に分類されているのが妥当であるのか。今後ジャンルを検討していただけるとありがたい。建設業は魅力あるまちづくりに携わりたいが、工業部会の様なモニュメントは作れない。拝島駅前の噴水は素晴らしいが、設置場所が悪すぎると感じる。

今、建設業の中で問題となっているのは、一般住宅の耐震補強である。課題としては、補助金があるものの利益が出ず赤字になるので、事業者がやりたがらない現状がある。しかし、今後は大きなインフラ整備だけでなく一般家庭の規模の受注も視野にいれていきたい。

委員長・・・ 今回の委員会を通し、ものづくり・工業が昭島市にとって宝物であるということが見えてきた。しかし市民にも知られてない部分も多々あった。働

き手や世代交代の課題が浮き彫りとなり、計画（案）の中に大きく反映されていると思う。様々なものを循環させ、産業を育てていく必要がある。

幸田委員・・・ 商業という立場で参加させてもらった。当社は昭和館、昭和の森ゴルフコース、昭和の森テニスセンター等を運営している。20 年前に昭島市にホテルを建てる際にはホテルオークラと技術提携し、高価格帯をターゲットとしたが、宿泊部門は苦戦した。現状、熱海や湯河原まで行くことができない、都心の裕福な高齢者層が宿泊しに来ている。

近年、アウトドアビレッジという施設を作り、ボルダリング・リードクライミング等が出来る施設を建てたことにより、様々な地域からの来場がある。しかし、現在新たな建物を建てるのには従前のコストの 1.5 倍ほどかかるため、今後は倉庫や工場ではなく昭島に人を呼べる施設を企画していきたい。その一つとして、オリンピック競技レベルが可能なスピード（クライミング種目）という建物を作っている。東京オリンピック等の宿泊地・練習地としての可能性も探してみたい。

住み続けたいまちを昭島市は掲げていると思うが、ここ数年は、新築家屋が多くできているにも関わらず人口は横ばいである。市外へ転居している方が多いのかと思う。訪れたい、住みたいまちにしていけることが課題だと思う。

委員長・・・ 商業の分野においては、昭和飛行機工業(株)がどんと構えていてくれている。これまで以上に各産業との連携をお願いしたい。

内藤委員・・・ 今後この産業振興計画（案）を皆さんが進めていくにあたり参考になればと思うので、横浜市と福岡市の成功例を紹介したい。

横浜市は古くて新しい街がミックスされているが、一貫してどのように人を集めるかを課題とし「人間を吸引する」まちをコンセプトにした施策を実行している。全てが成功するわけではない。しかし、古い工場跡を産業観光スポットに変えてしまうなど、過去失敗した事例も少し時間をおくと活用できるタイミングがくることもある。10 年、20 年、30 年スパンで捉え「産業移行」し、産業発展に寄与させている。福岡市もやはり人を集めることを課題として、コンベンション、会議、学会を集中的に招致する施策をとり成功している。

昭島市の地域ブランドとして挙げられている「あきしまの水」も工夫が可能。水は形態を変えていくことに着目し、冬は「蒸気」夏は「氷」など柔軟に水を用いて、やわらかいまちを目指してはどうか。

委員長・・・ 内藤委員とは、前回委員会からの付き合い。昭島をいろんな形でみている。ぜひその視点からの意見を活かしていきたい。

永澤部長・・・ 作りっぱなしの計画でなく、実行性のある計画をつくるように理事者より指示があった。ここがスタートであり、今後実行しながら検証、見直しも必要である。市としては、企業への支援実績の内容は捉えづらいこともある。現場へ出向いていく必要があると思っている。

委員長・・・ 円滑な運営に協力いただき感謝。

個人的には総合戦略、元気プロジェクトから昭島市に関わってきたが、昭島の魅力を伝えるのにかなり悩んだ。計画（案）を見ていただくと、内容は尖った計画（案）となっていないかもしれないが、実行性を考慮して少しずつ、着実に動く計画（案）を意識している。ワークショップにも多摩大学としても関わっていきたい。

3. その他

事務局・・・ 昭島市産業振興計画（案）は理事者確認後に（案）を削除し、製本等行う。最終版においては、多少デザインが変わる可能性はあるが、文言の修正は行わない予定である。議会への報告もするのでご承知おきいただきたい。

4. 閉会